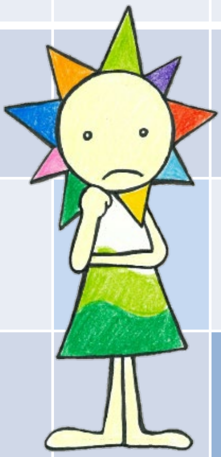
インクルーシブ教育システム構築支援データベース

インクルDB

「合理的配慮」実践事例データベース

なかなか伝わらない・・・。

落ち着きがない・・・。



研修の材料がほしい・・・。

困っているみたい・・・。

そんな時には、すぐ検索！

インクルDB

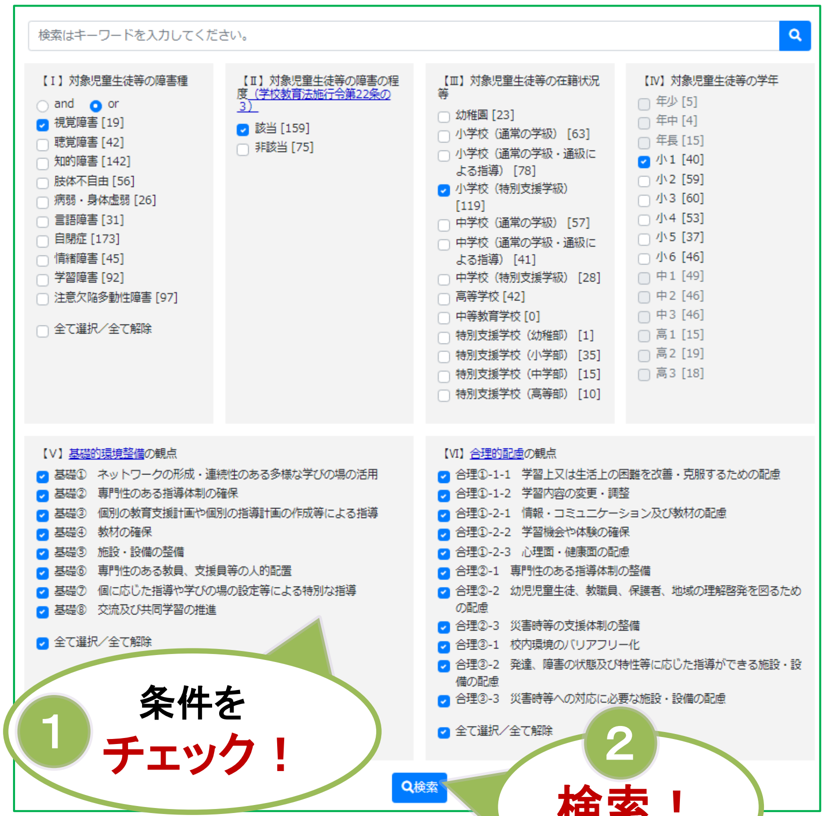
590事例
(2024年３月現在)

インクルDBを活用した研修例

研修会での活用方法も紹介しています

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（NISE）
インクルーシブ教育システム推進センター　https://inclusive.nise.go.jp/

「合理的配慮」実践事例データベースの使い方



① 条件を**チェック！**

② **検索！**

気になる事例を**ダウンロード！** ③

事例のダウンロード画面

Ａ生徒は、注意欠陥多動性障害があり、通級による指導を受けているＢ中学校在籍の中学２年生である。身だしなみを整える等の基本的な生活習慣が身に付いていない。学習面では、提出物を忘れることが多く、集中力を持続させることや読み書きについて困難さがある。こうした自分の情緒さが不十分であることや学習の苦手さ、宿題を提出することが難しい等のことから、自己肯定感が低い様子が見られた。

Ｂ中学校への入学後、通級による指導を受けたいとの希望がＡ生徒及び保護者から出された。通級による指導では、書くことや読むことの困難さを克服し、達成感を味わうことで自己肯定感を高められるような支援を行った。ビジョントレーニングによる支援や、計算する部分を分かりやすく示したワークシートの工夫等を行った。

通常の学級では、Ａ生徒が集中することが難しい時にすぐに教師が言葉をかけられるように、座席位置を前方に配置することや、教科書にルビを振る等の配慮を行った。

また、市の福祉課と情報を共有し、家庭と連携を図り生活面の支援にも取り組んだ。

これらを行った結果、Ａ生徒は身だしなみを整える態度が向上したり、集中して学習に取り組むことができる場面が増えたりする等、生活面、学習面の改善を図ることができた。

ファイル名：R01 0005JT2-AD

1．取組のキーワードについて

（1）対象児童生徒等の障害種（下のいずれかに●を付すこと。重複障害の場合は、併せ有する障害に全てに●を付すこと。）

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、自閉症、情緒障害、学習障害、●注意欠陥多動性障害

中略

4．対象児童生徒等への合理的配慮の実際

（1）【合理①－１－１】学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

Ａ生徒は、一斉授業において気になることがあると課題から注意がそれてしまい取り組むことが難しい。また、一度にたくさんの指示が出ると、何をすればよいか分からなくなってしまう様子が見られた。そこで、教師が声を掛けやすい座席にし、集中力が持続でき

3

るようにした。漢字学習の苦手さは、細かな部分に最後まで着目することのできない不注意からくるものと考えられたため、支援して、ビジョントレーニングを継続することとした。

また、忘れ物が多く、自分の物と友人の物の区別がつかないことからトラブルの原因にもなっていた。そこで、クリアファイルを教科ごとに用意し、授業に向けて準備する物の一覧表をクリアファイルの表面に貼りつけることで持ち物を確認できるようにした。

図２　持ち物一覧表のついたクリアファイル

合理的配慮の情報が満載！　検討する際の参考に！

合理的配慮が具体的に紹介されているよ！

事例をダウンロードして使えるよ！

研修方法も詳しくわかるよ！

※合理的配慮

障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことです。学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものです。